

映画『美女と野獣』に見るシェイクスピア

The Use of Shakespeare in the movie *Beauty and the Beast*

(2019年3月29日受理)

松浦 加寿子

Kazuko Matsuura

Key words : 『美女と野獣』, 『ロミオとジュリエット』, シェイクスピア, 文学, 映画英語教育

概 要

2017年に公開された実写版映画『美女と野獣』はシェイクスピアの影響を色濃く受けており、シェイクスピア作品の中でも特に『ロミオとジュリエット』との関連性が強い。本研究では、『美女と野獣』において『ロミオとジュリエット』がどのように言及されているか例示し、この2作品が関連している理由を共通するテーマから考察する。また、コミュニケーション能力育成の観点から視聴覚教材を活用して授業で文学作品を扱う意義について論じる。

1. はじめに

文部科学省は、平成26年に英語教育の在り方に関する有識者会議で、「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」を行い、HPに公表した。その中で、グローバル社会を生きるうえで英語を習得すればいいというのではなく、日本の歴史・文化などの教養を身につけ、思考力・判断力・表現力を養い、情報や考えを積極的に発信し、相手とコミュニケーションすることが重要であると述べられている。

高等学校の英語教育の目標は、平成30年に文部科学省によって告示された「【外国語英語編】高等学校学習指導要領解説」において、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」と掲げている。さらに、この

ためには、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成がうたわれており、コミュニケーション場面において多面的に物事を捉えることの重要性が明記されている。

英語教育の目標として「コミュニケーション能力の育成」が叫ばれて久しい。英語教育と英文学について、佐々木(2003)は、ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)は国際語英語の重要な文化アイテムであり、国際的コミュニケーションの手段として有効であると説明している。また、Daskalovska & Dimova(2012)は文学が外国語学習教材として有効である点として読解力を養成し、話の内容と自分を関係付け、ディスカッションやライティングのきっかけになることなどを指摘している。高橋(2015)は、文学作品は、言語教育的な意図がある学習教材とは異なり、登場人物や場所の設定が読者にとって自然であることから、コミュニケーション能力を養成するのに格好の学習教材と評価され、イギリスやアメリカの外国語教育においても積極的に活用されてきたと主張している。さらに、佐々木(2017:2)は、英語教育の場でコミュニケーション能力の育成について議論されて

いるが、コミュニケーションとは人間同士のつながりで、そのつながりを強める力が「人間力」であり、文学はまさにこれを涵養すると述べている。

本研究で扱うシェイクスピアは、深い洞察力で人間を観察し、巧みな心理描写、普遍的な人間ドラマを描いている点で、英文学史上最も優れた劇作家・詩人であることは言うまでもないだろう。シェイクスピア作品は世界中で何度も舞台化、映画化されており、彼の人気はいまだ衰えるところを知らない。さらに、作品内の台詞は多数のドラマや映画に引用されている。他方、映画『美女と野獣』は、ウォルト・ディズニー社が制作した1991年のアニメーションを実写化し、2017年に公開された。ウォルト・ディズニー社の『美女と野獣』のサイト¹⁾によると、2017年の年間興行収入において日本と世界ともに1位となり驚異的な大ヒットを記録した。

また、冒頭に示した今後の英語教育に関する五つの提言の中には、教育効果の高いICTの導入も積極的に進めていく旨も記載されている。塚本(1997)は、映像を活用することで学生の知的好奇心を呼び覚まし、英語学習の動機付けになり、教育効果が得られることを指摘している。さらに、塚本(2003)は、映像は言葉に表されないノンバーバルなメッセージや具体的な状況を提示することが可能になるため、英語表現やコミュニケーション技術だけではなく、多様な人々の視点に気付いていく効果が見られたと述べている。

本研究では、実写版映画『美女と野獣』(2017)においてシェイクスピアの作品、主に『ロミオとジュリエット』の台詞がどのように引用されているか例を挙げ、この2作品が関連している理由について考察する。

2. 作品の概要

まず、『美女と野獣』の概要を述べる。ある日、傲慢な王子が住んでいた城に魔女がやってきて、赤いバラを差し出し、寒さをしのぐために城に入れてほしいと乞う。しかし、王子は魔女の願いを聞き入れず、その魔女の呪いによって王子が野獣の姿に変えられてしまうところから物語は始まる。魔法のバラの花びらがすべて散るまでに誰かを愛し、愛されることで呪いを解くことができるが、野獣は誰とも会うことなく城に籠もり、ただ時

間だけが過ぎていく。村にはベルという女性が父親と暮らしていた。ある日、ベルの父親は野獣が住む城の庭にある白いバラをベルのお土産に採ったことで野獣によって城に監禁されるが、ベルが父親の身代わりを申し出る。野獣はベルと一緒に暮らしていく中で心に変化が起こり、二人は恋に落ち、真実の愛を手に入れて元の王子の姿に戻るといふ物語である。

次に、戯曲『ロミオとジュリエット』を概観する。舞台はイタリアの都市・ヴェローナである。モンタギュー家のロミオとキャピレット家のジュリエットがパーティーで恋に落ち、ロレンス修道士が二人を密かに結婚させる。ロミオは喧嘩に巻き込まれて親友のマキューシオを殺害されたことに立腹し、ジュリエットの従兄弟ティボルトを殺害し、ヴェローナを追放され、マントヴァに向かう。一方、ジュリエットはパリス伯爵との結婚を両親から命じられる。そこで、ロレンス修道士はジュリエットを薬で仮死状態にし、蘇生後にロミオと駆け落ちさせようとするが、その計画がロミオにうまく伝わらず、ロミオはジュリエットの仮死状態を見て自害する。目覚めたジュリエットもロミオの死を見て自害するという話である。

3. 『ロミオとジュリエット』と『夏の夜の夢』への言及

まず、『美女と野獣』の中で『ロミオとジュリエット』に言及する場面を見てみよう。各登場人物の発話ごとに番号を付しており、下線は筆者が強調のために引いたものである。また、日本語訳は映画字幕をそのまま引用し、括弧内の数字は映画DVDにおける場面ごとの時間を示している。

(1) 01 ROBERT:

Well! If it isn't the only bookworm in town.

(村で唯一の“本の虫”さん)

So where did you run off to this week?

(今週はどこへ行ってた?)

02 BELLE:

Two cities in Northern Italy.

(北イタリアよ。)

I didn't want to come back.
(帰りたくなかった。) (00:06:36)

映画の中でベルは読書好きで教養はあるが、風変わりな女性として描かれている。例(1)は、村人のロバートが本を持っているベルにどのような読書の旅をしたのか尋ねる場面である。台詞02で、ベルはロバートに「北イタリア」と答えており、さらに「帰りたくなかった」という言葉からこの本を非常に気に入っていることがうかがえる。ここでは北イタリアの2都市が具体的にどこを指しているのか断言できないが、次の例(2)を見て初めて明らかになる。

(2) 01 BELLE:

“Love can transpose to form and dignity.
Love looks not with the eyes but with the
mind. And therefore-”

(“恋は醜いものを美しく変える” “恋は目でなく心で見えるもの” “だから…”)

02 THE BEAST:

“And therefore is winged Cupid painted
blind.”

(“キューピッドは盲目に描かれている”)

03 BELLE:

So you know Shakespeare?

(シェイクスピアを?)

04 THE BEAST:

I had an expensive education.

(高等な教育を受けた)

05 BELLE:

Actually, “Romeo and Juliet” is my favorite
play.

(ロミオとジュリエットが好きよ) (01:08:35)

例(2)は、ベルがシェイクスピアの台詞を諳んじていると野獣も続けて諳んじる場面である。野獣もベルと同じく読書が趣味で教養が深いことが分かる。最後のベルの台詞05で『ロミオとジュリエット』が好きと野獣に伝えている。ここで初めて私たちは例(1)で言及されていた北イタリアの2都市が『ロミオとジュリエット』

の舞台であり、先述したヴェローナとマントヴァを指すことが容易に想像できるだろう。

また、前半の台詞01と02は『夏の夜の夢』からの引用である。『夏の夜の夢』は喜劇で、貴族の男女と妖精たちが織り成す恋愛ファンタジーである。ここでの台詞はまさにベルと魔女に外見を変えられた野獣との今後の関係性について示唆していると思われる。

さらに、台詞02は恋の神、キューピッドについて言及している。映画『ロミオとジュリエット』では割愛されているが、Arden版の『ロミオとジュリエット』にはロミオの友人であるベンヴォーリオとマキューシオの以下のようなやり取りがある。日本語訳は河合(2005)を借用する。

(3) 01 BENVOLIO:

Blind is his love, and best befits the dark.

(恋は盲目だから、暗闇がお似合いってわけだ。)

02 MERCUTIO:

If love be blind, love cannot hit the mark.

(恋が盲目なら、一発射貫くのも無理だな。)

(2.1.33-34)

例(3)は、キャピュレット家で開催されたパーティーにロミオは友人であるベンヴォーリオとマキューシオと一緒に忍び込むが、帰り道でロミオがいなことに気が付き探す場面である。ロミオはパーティーで出会ったジュリエットと恋に落ち、彼女に会いに行くために友人たちと別れる。まず、現代英語にもある“Love is blind”(恋は盲目)という表現はシェイクスピアに由来しており、ベンヴォーリオはロミオが恋で周りが見えなくなっていることをマキューシオに言っている。また、初期近代英語において“love”は「キューピッド」を指すことも少なくなかった。特に台詞02のマキューシオの発話はキューピッドの意味と掛けていると思われる。キューピッドは手当たり次第に矢を放ち、恋に陥れると同時に盲目の恋の神として描かれていることが分かる。このような知識があれば、『美女と野獣』とシェイクスピア作品とのつながりを意識しながらより一層映画を楽しむことが可能になるだろう。

4. 『美女と野獣』と『ロミオとジュリエット』に共通する内面性の重視

ここで、『美女と野獣』と『ロミオとジュリエット』の関連性を指摘し、その理由を考察する。先述したように、『美女と野獣』はバラに始まってバラに終わる物語である。物語冒頭では、魔女が持っていた魔法の赤いバラが登場し、物語全体を通してその花びらが散りゆく様子が描かれる。また、ベルの父親がベルにお土産として渡そうとした白いバラの花も登場する。

このバラが持つ役割は一体何だろうか。Vries (2004: 477)によると、赤いバラは熱情、願望を表すのに対し、白いバラは純粋さを表すと述べている。『美女と野獣』において、魔法の赤いバラは王子が21歳になるまで咲き続け、最後の花びらが散り終える前に誰かを愛し愛されることができたら元の人間の姿に戻ることができる。傲慢な野獣がベルと出会うことで内面的な成長を遂げることから、赤いバラは野獣のベルへの愛情と、元の人間の姿に戻って心優しい男性になりたいという願望を表していると考えられる。また、白いバラはベルの純粋さを表しているだろう。

他方、映画『ロミオとジュリエット』においてもロミオがジュリエットに愛の告白をする場面でジュリエットがバラに言及している。

(4) Juliet:

What's in a name?

(名前?)

That which we call a rose

By any other word would smell as sweet;

(バラは別の名で呼んでも香りは同じ) (43:00)

例(4)のジュリエットの台詞においてバラの名前は「家柄」を表し、バラの香りは「ロミオとジュリエットの愛」と考えられる。ここでは比喩が用いられ、ロミオがバラに例えられている。Vries (2004: 533)は、シェイクスピアの時代はバラが花の中でも最高位の存在であり、知性美を表していたことを説明している。この台詞において、ロミオはジュリエットにとって最高の存在であることを示している。

『ロミオとジュリエット』は先述したように、敵同士の家にも生まれた故の悲恋である。仇敵モンタギュー家である「ロミオ」という名前が憎いのであって、実体の「ロミオ」には変わらない、つまり、この台詞を通して物事の本質を見極めることの大切さを私たちに訴えていると考えられる。また、『美女と野獣』も人間と野獣故に報われないかもしれない恋模様が描かれている。この映画を通して、外見より内面が大事というメッセージを私たちは幾度となく受け取り、結果としてベルと野獣をロミオとジュリエットの境遇に容易に重ね合わせることができるのである。

5. まとめと今後の課題

本研究では、映画『美女と野獣』においてシェイクスピア作品、主に『ロミオとジュリエット』がどのように言及され、また引用されているか共通するテーマを通して考察した。シェイクスピア作品に関する知識があれば映画の内容理解がより一層深まり、異文化理解を促進できることが明らかになった。

先述したように、文部科学省は英語教育改善のための五つの提言の中でICTの積極的な活用と学習教材の充実を図るよう促している。現代生活において映像メディアは欠かすことのできないコミュニケーションツールの一つである。学習指導要領では、外国語の学習を通して「人間性」も育成することを掲げている。大学は多くの学生にとって人格形成を養う最後の高等教育機関である。まさに、文学がその役割を担うことができるのではないだろうか。今後は視聴覚教材などのICTを授業で積極的に活用しながら英語学習を行っていくことがますます求められる時代になるだろう。

*本研究は、第117回中国学園大学公開セミナー「映画の中のシェイクスピア～シェイクスピアを知ると英語はもっと面白くなる!～」(2019年1月30日)で発表した内容を基に執筆したものである。

謝 辞

本研究は、平成30年度中国学園大学特別研究助成費「映

画英語の教育的な使用に関する研究」を受けたものである。

註

1) <https://www.disney.co.jp/movie/beautyandbeast.html> (最終閲覧日: 2019年3月20日).

DVD

Havelock-Allan, A., Brabourne, J. & Zeffirelli, F. (1968). *Romeo and Juliet* [Motion picture]. United States: Paramount Pictures.

Hoberman, D., Lieberman, T., & Condon, B. (2017). *Beauty and the Beast* [Motion picture]. United States: Walt Disney.

Text

Weis, R. (ed.) (2013). *Romeo and Juliet*. London: The Arden Shakespeare.

引用文献

Daskalovska, N. and Dimova, V. (2012). Why should literature be used in the language classroom? *Procedia - Social and Behavioral Sciences*, 46, pp.1182-1186. Available online at www.sciencedirect.com (最終閲覧日: 2019年3月20日)

Vries, Ad de. (2004). (2nd, enl. ed.) *Elsevier's Dictionary of Symbols and Imagery*. Amsterdam: Elsevier.

河合祥一郎 (2005). 『新訳 ロミオとジュリエット』, 東京: 角川文庫.

佐々木隆 (2003). 「国際コミュニケーションとしてのシェイクスピア」『武蔵野短期大学研究紀要』, 第17号, pp. 71-79.

佐々木徹 (2017). 「今, 日本で, 英文学にどう取り組むか?」『教室の英文学』, 日本英文学会 (関東支部編), 東京: 研究社.

高橋和子 (2015). 『日本の英語教育における文学教材の可能性』, 東京: ひつじ書房.

塚本美恵子 (1997). 「『映画の吹き替え授業』と『映画で教える異文化理解』」『映画英語教育研究』, 第3号, pp. 81-86.

塚本美恵子 (2003). 「映像化時代に求められる教育の役割—多様性を目指すメディア教育実践の試み—」『文化情報学』, 第10巻第2号, pp. 33-42.

文部科学省 (2014). 「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告 ～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm (最終閲覧日: 2019年3月20日)

文部科学省 (2018). 「【外国語英語編】高等学校学習指導要領解説」

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/28/1407073_09_1_1.pdf (最終閲覧日: 2019年3月20日)

